

主な委員意見に対する市の対応

【ご意見】

私立幼稚園を活用した1歳児・2歳児保育を実施し、育児不安や待機児童対策、また幼児教育への円滑な移行を図る役割を担う。

【対応】

子ども・子育て支援新制度では、0～2歳を対象とする小規模保育事業が新たに認可事業となり、幼稚園に併設という方法でも実施できることになっています。そして、認可基準の条例制定後には、私立幼稚園の皆様の説明会を開催しています。私立幼稚園における小規模保育事業の実施も1つの方法として活用し、事業計画に基づき必要な整備を進めていきます。

【ご意見】

一時預かりについて、就労枠・リフレッシュ枠の制限により、全体の定員に達していなくても利用できないことがあります。柔軟な対応をして欲しいです。

【対応】

無駄なく施設および制度が活用され、一人でも多くの家庭のお子さんを預かれるよう、平成27年度からの量の見込みの確保方策に基づく実施を踏まえ、受け入れ基準なども含めた運用の見直しを検討しています。

【ご意見】

ファミリー・サポート・センターの「あずかりっこ」の会場・回数を増やし、リフレッシュ保育の機会を増やしてほしい。

【対応】

会場の増設につきましては、子どもを預かるための、ベッドや玩具といった環境の整備が必要となるため、現状の会場数の維持が適切であると考えています。出張という形での実施は過去に例がありましたが、当日突然のキャンセルにより、実施最低人数に満たなくても出張しなければならないなど、労力対効果が得られず行わなくなってしまった経緯があります。

なお、回数につきましては、平成26年10月～12月の3ヶ月間、試験的に本部及び妙典ともに増やし、リフレッシュ保育の需要を把握し、今度の取組みにつなげていきます。

【ご意見】

こども館で食事ができる場所を設置して欲しい、また、もっと積極的に親や子どもに関わってほしい。(つどいの広場と比較しての意見。)

【対応】

まず、食事ができる場所の設置についてですが、市川こども館、南八幡こども館につきましては、館内に設置があります。また、その他こども館でも複合施設内に設置されているところがございますのでご利用いただきたいと思います。遊び場での飲食については、1部屋しかないところで、かつ、幅広い年齢層が集まる場所となっているため、食事はもとよりおかし・ガム等の持ち込みもご遠慮いただいていることをご理解ください。

また、積極的な関わりについては、平日の午前中など乳幼児親子の利用者には、日常的に声掛けや相談等の対応を実施しております。幅広い年齢層で、多くのこども達が利用する時間帯には、限られたスタッフの人数で対応しているため、全体を見渡せる体制が必要であり、積極的なお声かけは難しい面があります。利用者の少ないタイミングを図ってご来館いただけますと、スタッフも余裕をもって対応することができます。

【ご意見】

父親のための子育て講座を開催して欲しい。特に地域子育て支援拠点を活用しての開催、また、定期的な開催を希望します。

【対応】

現在、各子育て支援センターにて、パパ向け講座やイベントの開催をしております。また、親子つどいの広場にてパパ向け企画、こども館にて父親支援に現在も定期的に取り組んでいます。

【ご意見】

地域子育て支援センター、親子つどいの広場、こども館などが徒歩圏内にない地域では、定期的に出張事業を実施してほしい。

【対応】

地域子育て支援センター、親子つどいの広場、こども館においては常駐のスタッフによる拠点事業としての子育て家庭の支援や育児相談などを基本として行っているため、出張事業の実施について対応は難しいと考えています。

出張事業の形態としてはすこやか応援隊がその役割を担っており、拠点がやや遠い地域の市内北東部では、大柏出張所や本光寺にて、スタッフが出向きひろばの開催を実施しています。

また、保育園や幼稚園の園庭開放、マイ保育園などの情報は子育て応援サイト『いちかわっこWEB』から検索できます。

【ご意見】

食育をテーマとして1～3歳の子どもの食事について「幼児食講座」を開催してほしい。また1歳以降の生活リズム、イヤイヤ期、友達とのかかわり方など様々なテーマで各種講座、公開講座の実施。

【対応】

幼児の食事に関する講座については、すこやか応援隊による、食育や子育ての悩みを共有し子育て負担の軽減などを計り、支援する「すこやかひろば」の中で、食育編として行っています。今年度は、1歳6ヶ月から2歳児を対象に年4回実施の予定です。また、その他様々なテーマを設けて、あじさい保育園にて月1回定期的に豆講座を、就園前の親子を対象に「すこやかひろば講座」の開催をしています。さらに、個別の相談による訪問の形での対応も行っています。

保健センターでは、乳幼児・児童・生徒の保護者等を対象とした健康及び栄養講座を市民や公民館主催事業、つどいの広場等の依頼に応じて出前講座で行っています。内容は、食育の大切さも含めたバランスのとれた食事、具合の悪い時の食事及び成長段階に伴う健康・育児のアドバイス等の話など、依頼のニーズに対応しています。

幼児以降の成長過程は、個人ごとに大きな差が出始め、また家庭の状況なども異なってくるケースが多いことから、個別での対応が基本となっていますが、各施設での講座についてもより周知を行い、活用いただけるよう取り組んでいきます。

【ご意見】

産後1回だけでなく、妊娠初期から定期的に同じ保健師がずっと担当する「マイ保健師」制度を実施してほしい。また両親学級、母親学級の回数を増やし、託児付で第二子を出産する母親向けの学級を実施してほしい。

【対応】

保健センターでは地区毎に担当保健師がおり、妊婦訪問をはじめ新生児・1～2ヶ月までの赤ちゃんがいるご家庭への全戸訪問を行っております。また、母子の健康状態や育児状況により、必要に応じた相談・訪問指導等を行うなど継続的な関わりを持っています。

両親学級・母親学級については、始めて出産を迎える方を対象にしておりますが、第二子以降の方には地区担当保健師が個別に対応しております。また、パパ・ママクッキング及び妊婦歯科健診では、第二子の出産にも対応しています。他に、つどいの広場、地域子育て支援センター、こども館の利用は妊婦さんも対象としており、マイ保育園制度も活用いただけます。

第二子出産に対するケアについては、託児付の講座開催が過去に事例がありますが、途中で泣き出すお子さんがいるなどお母さんが講義になかなか集中できない、お子さんの年齢にばらつきがあり預かるスタッフが対応しきれなかったという経緯があります。現在は、各家庭や母子のそれぞれの状況に対応しながらきめ細かく相談に応じられるよう個別対応の形をとらせて頂いています。